

福岡市長
高島 宗一郎 様

ご当地ナンバー「博多」の導入推進に 関する要望書

令和5年8月25日

福岡商工会議所

ご当地ナンバー「博多」の導入推進に関する要望書

自動車の新たな地域名表示ナンバー（いわゆる「ご当地ナンバー」）は、地域振興や観光振興だけでなく、地域への愛着や誇りなどの意識を高めることにも効果が期待されており、各地の自治体で導入が進んでおります。

福岡市は、天神ビッグバン・博多コネクティッドなど都市再開発によりハード整備が進み、それらが都市機能の向上、企業誘致や経済活動の活性化に繋がっています。特に本年3月27日に市営地下鉄七隈線が延伸開業し、新駅「櫛田神社前」駅が天神と博多の中間に開設され、福岡市の東西の人流がさらに活発になっています。

このような時代こそ、福岡市が持っている、ともすれば忘れられがちな歴史的・文化的資産の価値を見直す必要があると考えます。

福岡市を今後さらに魅力ある街にしていくためには、市民が郷土の歴史や文化を学び、郷土愛を育めるような環境作りが肝要です。郷土愛にあふれた市民がいてこそ、ハードとソフトの調和した奥行きのある魅力あるまちづくりが可能となると考えます。

この様な歴史・文化を活かしたまちづくりを進める観点として、市民が身近に感じる伝統的な地名に着目することも一つのポイントであるといえます。

福岡市の「博多」という名称は、記録が残るところでは、続日本紀(759年)に古代「博多大津」として、現在の博多湾全体を指す地名として登場します。中世では、南蛮船(ポルトガル)の船長から、当時、日本で最も栄えている交易拠点都市「Facata(ファカタ)」として全世界に紹介されています。

しかし、江戸時代に入り、黒田氏が新しい城下町名を黒田家ゆかりの備前国邑久郡福岡(岡山県瀬戸内市長船町)の土地にちなみ「福岡」と命名し、城下町は「福岡」、博多商人たちが暮らす地域は「博多」として棲み分けられました。1889年(明治22年)の市制施行の際には、市名が議会で賛否同数ながらも、議長裁決で「福岡市」に決定。同年に開業した駅を博多駅としたものの、地名からは博多が消滅することとなりました。

その後、83年の時を経て、1972年(昭和47年)、福岡市が政令指定都市となる際に、地域住民の熱い思いから、「博多区」として、ようやくその名称が復活したところです

現在、博多という名称は、悠久の歴史に裏打された、祭り、文化、食べ物など伝統文化に係る名詞の一部、あるいは個人の出身地としても広く使われています。

この1200年以上の歴史があり、シビックプライドの代名詞ともいえる由緒ある地名「博多」をご当地ナンバーとして導入することができれば、自家用車はもとより、観光バス、貨物トラック等が、市内外を問わず全国津々浦々まで走り、「博多」の地名が広まることとなります。これにより、市民の郷土愛も育まれるとともに、福岡市のPRや観光誘客、ひいては、経済振興に寄与すると考えます。

については、地方版図柄入りナンバープレートの地域名として「博多」を追加することに関し、諸手続きを進めていただくよう、要望します。

以 上

令和5年8月25日
福岡商工会議所
会 頭 谷 川 浩 道